

～漁業生産から末端までの一貫通貫プロジェクトによる新ビジネスモデルの構築～
辻水産株式会社（愛媛県宇和島市）

目詰まりの現状

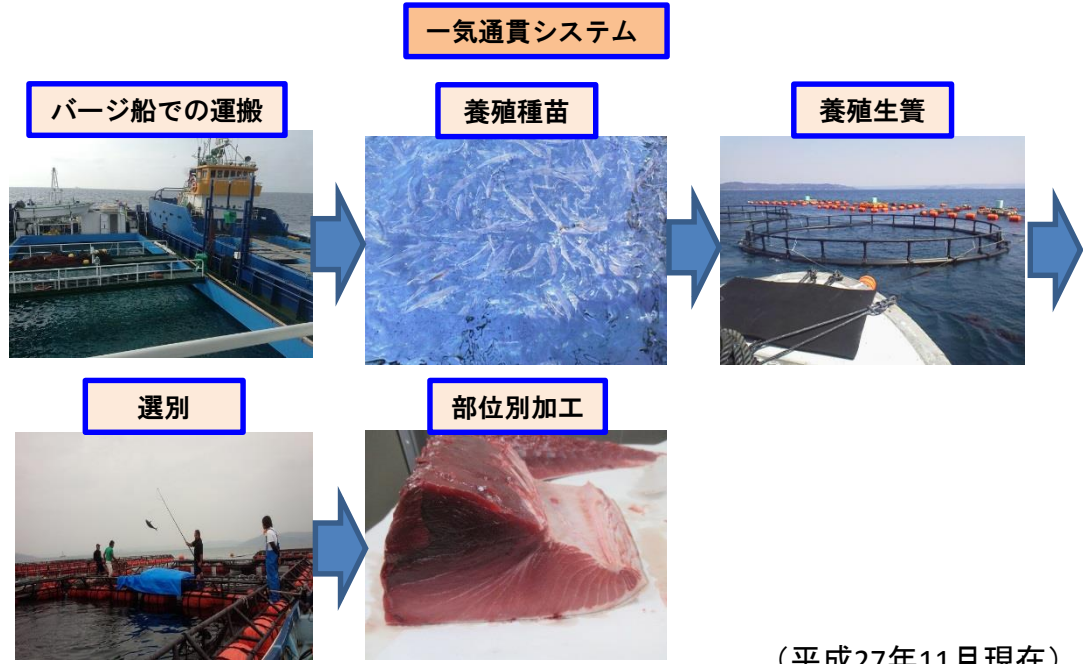
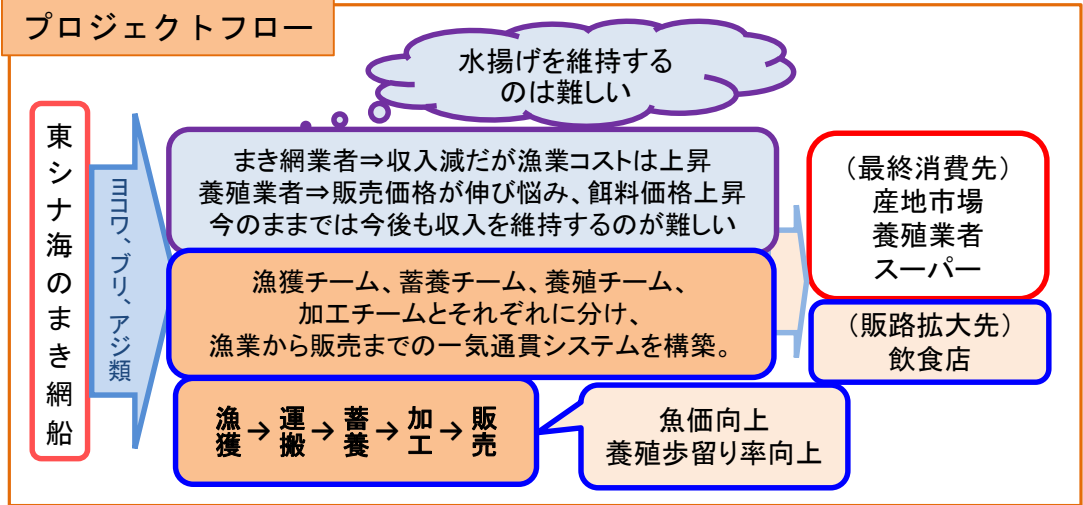
- 大中型まき網漁業者…収入の低迷、漁業コスト上昇、領域問題や資源管理等により、水揚げの維持が難しい。
- 養殖業者…ブリ等価格の伸び悩み、餌料価格の上昇により、経営が厳しい状況。
- コスト削減及び生産物の付加価値向上、新たな流通体制の構築が必要。

プロジェクトの概要

- 漁業・蓄養チームはまき網漁獲の蓄養、養殖チームで蓄養魚を種苗とした養殖、加工販売チームで魚の部位別加工・販売を行う一貫通貫プロジェクトとしてシステムを整える。
- 漁業・蓄養チーム⇒鮮魚向けの一部を活魚バージ船に流し込み、蓄養基地まで運搬の後、養殖用種苗として提供する。
- 養殖チーム⇒共通の餌料で養殖し、スキルアップ及び情報交換を活性化させ、マーケティング視点の養殖方法を確立させる。
- 加工チーム⇒マグロやブリを従来のフィレ加工ではなく、消費者側の需要に応じた部位別カット等行い販売を行う。

取組による成果

- 旋網から活魚バージ船への受け渡し及安全かつ効率よく行えた事により魚価が向上。
- 養殖種苗の歩留り率が向上し、養殖業者の収益確保。
- ロイン加工、小ロット納品が可能になり、販売ロスの削減及び販売先が拡大。
- ブロック加工による商品納入も増加し、新たな加工及び販売形態を確立。



(平成27年11月現在)